

NEDO「次世代浮体式洋上風力発電システム実証研究
（浮体式洋上風力発電の導入促進に資する次世代技術の開発）」に採択
～浮体式洋上風力発電の洋上での風車施工技術および大規模修理技術の開発～

2026 年 8 月 17 日

東京電力リニューアブルパワー株式会社

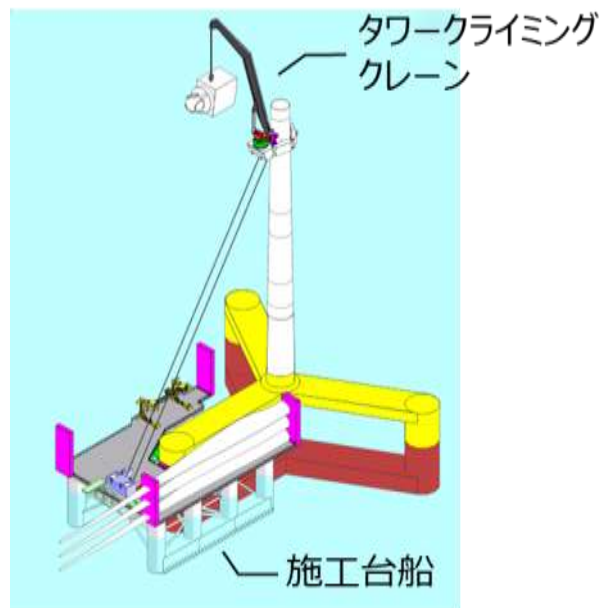
当社は、国立研究開発法人新エネルギー・産業技術開発機構（NEDO）が公募した「次世代浮体式洋上風力発電システム実証研究（浮体式洋上風力発電の導入促進に資する次世代技術の開発）」において、「浮体式洋上風力発電の洋上での風車施工技術および大規模修理技術の開発」を提案し、この度、採択されました。

2025 年 2 月に閣議決定された「第 7 次エネルギー基本計画」において、再生可能エネルギーは主力電源として位置づけられています。また、同年 8 月に公表された「洋上風力産業ビジョン（第 2 次）」では、2040 年までに 15GW 以上の浮体式洋上風力発電の案件形成が目標と掲げられており、2030 年以降の本格的な導入拡大に向けた技術開発が求められています。浮体式洋上風力発電の普及を進めていくためには、日本周辺海域特有の気象・海象条件や港湾に適合した技術を確立するとともに、サプライチェーンを整備することが必要です。

本事業は、一般財団法人日本海事協会と国立大学法人東京大学と共同で、小規模なクレーン設備（タワークライミングクレーン）と施工台船を組み合わせた洋上での風車施工技術および大規模修理技術の開発に取り組めます。これにより、風車の搭載や交換作業を現地海域で実施できるようになります。サイト近傍の多様な港湾を活用した施工・維持管理が可能となることで、発電コストの大幅な低減を実現します。

当社は、本事業に取り組むことにより、2050 年のカーボンニュートラル社会の実現に貢献してまいります。

以 上



タワーライミングクレーンと施工台船による施工技術